

主任牧師 中島 聡

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」 マタイ福音書七・七

《主を信じることは祝福の始まり》

私たち清水ヶ丘教会は、今秋、この御言葉が真実であることを新たに体験させていただきました。一〇月二五日、神奈川県私立学校審議会のもと、教会付属「白百合幼児学園」の学校法人化申請が認可され、「清水ヶ丘教会学園 白百合光の子幼稚園」が誕生することになったのです。

学法化に関しては、これまでその可能性が検討され、県にも掛け合ってきたのですが、境内地の未確定や道路問題等、諸課題を抱えており、なにより「1km圏内に他の幼稚園がないこと」という大原則に阻まれてきました。すでに1km圏内に四ヶ園（白百合を入れれば五ヶ園）もあったからです。学法化の門は堅く閉ざされていました。

当然のことですが、宗教法人立と学校法人立とは、私学助成に天と地ほどの差があり、その差は、教会からの援助、保護者負担によって埋められてきましたが、もはや限界に達しておりました。それで

白百合幼児学園 学校法人の認可決定！



来年4月から清水ヶ丘教会学園白百合光の子幼稚園に

も教会は白百合を通してキリスト教幼児教育に伝え、幼な子たちに、その保護者に伝道することをやめず、保護者におかれても二世代、三世代と白百合を愛して続けてくださいました。

そして、境内地が確定し、道路問題も解消し、すべての境内地の登記が完了したことを受け、原則の壁に挑むことになりました。通常ならば学法化の門は決して開かれることのないはずでしたが、県に陳情、嘆願を重ね、遂に「周囲四ヶ園の全てが承認すれば学法化申請を受け付ける」という返答を得るに至ったのです。

これは厳しい難関ではありますが、それでも門は1mm開いたのです。そして、すでにこの時点で、主は私たちに先んじて動いておられたのです。私たちが学法化の申請を始めたその年に、四ヶ園の内の一つ、霞ヶ丘幼稚園の園長に清水ヶ丘教会在籍の武田治子牧師が就任されたからです。今だからこそ言えるのですが、この時、武田先生は大変重い病と闘っておられました。普通なら治療に専念せねばならない状態でしたが、武田先生は信仰によって病と闘いつつ園長職を続けられました。白百合学法化をお願いした際には「喜んで協力します。お祈りしていますよ！」と力強い励ましを受けたのであります。

残る三ヶ園は、杉山神社幼稚園、お三の宮幼稚園、横浜れんげ幼稚園と、神社寺による幼稚園でありましたが、「主は信じる者に必ず祝福してください。信仰による勇気を得て、お願いをしたところ、三ヶ園ともご承認くださったのです。門は開かれた

のです！

それからは、教会・百合幼児学園・事務所の力を合わせ、全力で認可申請(園庭測量、園地分筆登記等々)を行いました。しかし、最後の難関は、「園地・園舎は自己所有」という原則であり、園地すなわち境内地を学校法人に寄付しなければならないことでした。

清水ヶ丘教会の境内地は、初代倉持芳雄牧師が祈りに祈って、探しに探して、神様から与えられたものであり、「境内地を寄付することはできない」と受けとめられてきました。そこで、園地の賃貸借契約を求めたところ、「それは県や市の土地に学校法人を設立する際に賃貸借で行う場合でのことであり、前例が無い」とのことでした。しかし、ここにおいても祈りによる陳情を重ね、「せめて園地の半分は寄付すること」等、紆余曲折はあったのですが、全園地賃貸借(土地は清水ヶ丘教会の境内地のまま)で認可が下りたのです！

境内地を境内地として守り抜くことができたのは、これまで清水ヶ丘教会が創立以来ひたすら信仰によって歩み続けてきたことが伝わったからであり、百合幼児学園を五十七年に亘って守り抜き、真摯にキリスト幼児教育に仕えてきたことが評価されたからです。他の幾つもの奇跡的な主のご配慮がありました。ここに境内地にまつわる陳情を別枠にて転載いたします。これこそが学法認可を得さしめた信仰なのです。

「わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさ

の中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。」ヨハネ福音書一・十六

清水ヶ丘教会は、これまでも数え切れない祝福の恵みを受けてきましたが、今秋、さらに大いなる恵みを受けることができました。それはただ信仰による祝福であり、私たちのためならば、たとえこの命さえも惜しくはない、と十字架に架かられた神の御子イエス・キリストの愛によるのです。

私共、清水ヶ丘教会は、この神の愛と信仰によって、天に召され行かれた先達の牧師先生方、信徒お一人お一人と、天と地の祈りを結び合わせて、これからも福音伝道に邁進して参ります。皆様の上に主の御祝福が豊かにありますようにお祈り申し上げます。